

平成27年度第4回岡山県地方独立行政法人評価委員会の議事録

- 1 日 時 平成27年7月1日（水）15:45～17:15
 2 場 所 公立学校共済組合岡山宿泊所ピュアリティまきび3階 橘
 3 出席委員 末長委員長、清水委員、小田委員、江原専門委員、田淵専門委員
 4 議 事

- (1) 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター平成26年度に係る業務の実績に関する報告等について
 質疑の冒頭に精神科医療センターから実績について説明が行われ、続いて委員からの質疑が行われた。以下はその概要である。

委員発言要旨	地方独立行政法人及び事務局発言要旨
<p>ひとつ聞きたいのですが、外来患者の一人あたりの収益が上がっているのは、なぜ上がっているのですか。</p> <p>入院が増えたのは、16対の1の医師負担のですか。</p> <p>一人あたりが、結構上がってましたね。何で上がるのかなと思ひまして。</p> <p>賃金がベースアップしていったら困るんだけど、例えば、上がっていても、入れ替わって、総人件費はどうなっているかと言ったら、入れ替えていったらいいんじゃないかと。特に高齢者就労は下げていけるわけで、入れ替わって、若い人が力を付けて、給料は上がっていくんだけど、総人件費としては圧縮できるという構造もあるわけですね。</p> <p>救急のときには、精神科がなくて困るから、こっちに全部やってくるという。</p> <p>本質的なことではないんですが、非公務員型に変わっていくということで、来年からマイナンバー制が始まっていくとですね、情報管理と</p>	<p>岡山県精神科医療センター 通過型のデイケアと、生活の場であるデイケアとして分けました。通過型デイケアは、就労支援、疾病理解、生活安定というコース別で1年卒業モデルにしたことによると思います。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 急性期16対1です。ただ、デイケアについては以前は70の大規模1単位だったのが、今が50が2単位のデイケアです。</p> <p>○岡山県精神科医療センター デイケアの割合の問題なんです。検査が特に増えたということではないです。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 今年もいろんな事業を受けています。当然やらないといけない事なのですが、今はあまり増やさないようにして、足下をしっかりと固めようと思っています。 今一番怖いのは、年々上がっていくベースアップです。これは大変です。経営者の皆さんも困っていらっしやると思います。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 理事長が言っていたのは、看護師が約160人いるんですが年齢層が20代から塊で、今後20年くらい続くという。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 一番地域に貢献してるのは、総合病院の救急で精神科の症状があった場合、電話があったら、必ず当院が受け、必要があれば往診行くことにしています。精神的な問題のほうが重ければ当院が引き受けるという体制をとっています。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 医師が一人とか、二人いらっしやっても、いつも当直しているというわけにはいかないんですね。他の病院にも声をかけるんですけど、なかなか難しいですね。いずれは、どこの病院でも受けれるようになったらいいなと思います。</p>

いうんですかね、医療情報についても、マイナンバーを付けて管理していかないといけないというのが、情報漏洩が怖いからやらないわけにいかないと思うんですね。そこらの情報漏洩とかの対策として、目標のここらに情報管理を入れた方がいいくらいですけども、例えばですね、退職とかに当たってですね、誓約書をですね、退職者に取っているかどうかですね。

例えば、辞めたあとに、情報をメモリースティックに持っておいて、情報を流してしまうとか、医療のところでも非常に微妙なところですので、そういうことをされては困るし、さらに、辞めた後に勝手なことをして、損害賠償がこちらに降りかかってもいけないので、辞める際の誓約書をしっかり、民間なんかでしっかりしたところは、やめる際に誓約書に秘密保持をうたってるんです

そこらもきちっとされたほうがいいかなと。

7Pに育児休暇を取得しやすい、と書かれているんですが、ぜひ岡山県でモデルケースになるようなことをやっていただきたいな。と思うんですね。今、女性が働く上に置いて、ここらがしっかりしてるかどうか企業が、組織として非常に重要な状況になっていますんで、ぜひどんどん勧めていただいてモデルケースになるようにやっていただきたいです。

働く人が、少し前から減ってきているわけですよ。人が働きたいところには行くけど、そうでないところには行かないという、人が足りないから、事業がうまくいかなくなるという。

金は融資はできるけど、人はできないわけですよ。そこで、勝ち負けがついてくる。そういうのが日本全体の構図ですよ。

P5のですね「疾病理解や社会資源のパンフレットの作成」で患者や家族の視点に立った適切でわかりやすい情報の提供に努められたところですが、これだけ順調に外来患者さんが増えていく状況になると、ソーシャルワーカーのほうで、社会資源の開拓であったり、調整であったり、家族調整であったりということがきめ細やかに対応ができるというのが困難になっていざるをえないかなと余計な心配をしているんですが、このパンフレットというのは具体的にはどういったものなんでしょうか。

例えば、就労支援事業所の相談支援やさまざまなものが、目的別に網羅されているようなものでいらっしゃるのか、紹介いただけますか。

○岡山県精神科医療センター
就業規則にはあります。

○岡山県精神科医療センター
辞められる時にもう一度思い出させないといけないですね。

○岡山県精神科医療センター
大変大切なことですね。女性の医師がとっても増えていきます。ただ単に、保育と言うより、病児保育ができないと、子どもが病気といったらどこも見えてくれないうから、ご家族がいなかぎりはどうにもならないですからね。
預けているお母さんが、すぐ会いに行けるといのが絶対必要ですね。頭に入れておきます。

○岡山県精神科医療センター
質問のあった、外来患者が上がっているのは、さらに考えてみると 圧倒的に訪問が増えていきます。
地域に出て行くことが増えて、そこで一人あたりの単価が上がっている可能性があるんで、たぶんその傾向は今後も増えるんじゃないかと思えます。

光トポグラフィは、ちゃんと診断できるんですか。

当院も入れようか悩んで知るんですが、かなり正確にでるという記事が出て、患者さんにしてくださいと言われて聞いてみたんですが、あまりまだあてにはならないですか。

普及はかなりしているんですか。

○岡山県精神科医療センター
まだ網羅されたほどにはなっていないので、それぞれをパンフレット化していこうと思っています。

○岡山県精神科医療センター
ちょっと様子を見ています。

○岡山県精神科医療センター
あまりまだあてにはならないでしょう。

○岡山県精神科医療センター
中国地方で岡山だけが、まだ検査を受けられる場所がないので、当院の役割として挙げています。国立精神神経医療研究所の研修には参加していますが、はっきりと取り組むという決断には至っていません。

○岡山県精神科医療センター
脳外科とか他の領域では先行していて、精神科にも入りつつありますが、本当に精神科の病気を脳の表面の血流をみてわかるのか、疑問があるところです。検討は続けているところです。

(2) その他 今後の日程について確認。挨拶等